

丸山地蔵

地蔵は、旅人や子どもを見守ると言われている仏教の守護神で、地蔵の像は日本各地で見られます。地蔵は典型的に小さめな姿をしており、しばしば赤い帽子と前掛けを身につけています。丸山地蔵は、天明の大飢饉（1782-1788）で亡くなった人々を慰霊するとともに、豊かな収穫を祈る対象として、1801年に建立されました。像本体と台座を合わせると高さ3メートルになるこの像は、地蔵の像としてはかなり大きいものです。

この地域は2011年の巨大津波で浸水しましたが、丸山地蔵は流されなかったことから、この像は再生のシンボルとしてみなされるようになりました。像の近くには小さな情報センターと地元のコミュニティセンターであるWE ARE ONE北上があります。